

小平市教育委員会議事録
——7月臨時会——

平成29年7月31日（月）

開催日時 平成29年7月31日(月) 午前10時00分～午前10時43分
開催場所 健康センター第2～4会議室
出席委員 古川正之 教育長
森井良子 教育長職務代理者
山田大輔 委員
高槻成紀 委員
三町章 委員
説明のための出席者 有川知樹 教育部長
出町桜一郎 教育指導担当部長兼指導課長
松原悦子 地域学習担当部長
余語聡 教育総務課長
荒木忍 教育施策推進担当課長
本橋義浩 指導課長補佐
中村和哉 指導主事
小影俊一 指導主事
書記 宮崎淳 教育総務課長補佐、塚本真也 教育総務課主事
傍聴者 7名

午前10時00分 開会

(開会宣言)

○古川教育長

ただいまから教育委員会7月臨時会を開会いたします。

傍聴者の方にお伝えいたします。入り口でお渡しいたしました傍聴券の裏面に注意事項が記してありますので、ご了解の上、傍聴中は静粛にさせていただき、円滑な会議の進行にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

(署名委員)

○古川教育長

それでは、はじめに、議事録署名委員の指名を行います。

本日の議事録署名委員は、森井教育長職務代理者、及び私、古川でございます。

(協議事項)

○古川教育長

それでは協議事項を行います。

協議事項、平成30年度から平成31年度使用小学校教科用図書についてを議題といたします。はじめに、本年度の小学校教科用図書の採択について、これまでの経緯の説明をお願いいたします。

○出町教育指導担当部長

小学校教科用図書の採択について、これまでの経緯をご報告いたします。

本年4月20日の教育委員会定例会におきまして、平成30年度使用小学校教科用図書採択方針、平成29年度小平市立小学校教科用図書採択要領及び同細則を定め、これに基づきまして、5月9日に学識経験者、保護者代表、小学校長、副校長で構成される小平市立小学校教科用図書審議委員会及び同審議委員会の下部組織であります教科用図書調査部会を設置し、委員の委嘱をいたしました。

同調査部会では、発行者ごとに専門的な調査研究を行い、調査資料をまとめ、6月21日に同審議委員会に提出いたしました。

また、6月3日から7月3日までの間、市内6館の図書館におきまして、教科書の見本本を展示し、あわせて市民の方々を対象としたアンケートを実施し、ご意見等を寄せていただきました。

各学校におきましても、各教科書の調査研究を行い、その結果を報告書としてまとめ、同審議委員会に提出いたしました。同審議委員会からは、これらの資料をもとに検討を重ね、まとめたものを同調査報告書として、7月20日に提出いただきました。なお、教育委員の皆様には、同審議委員会からの報告書のほか、各学校における調査研究報告、各教科書発行者の教科書編修趣意書、東京都教育委員会が作成した調査研究資料、図書館で実施したアンケートの写しをお渡ししているところでございます。これらの資料もあわせてご参照いただき、ご協議いただきたいと思います。

○古川教育長

今年度採択する小学校教科用図書につきましては、「特別の教科道徳」の1教科、1種目でございます。

協議の手順といたしましては、本日は委員の皆様からご意見をいただき、採択を決定する議案に載せる教科用図書の候補を2者から3者程度に選定いたします。

8月17日の教育委員会定例会では、さらに候補を1者に絞り込み、協議終了後に議案を作成し、審議する予定でございます。

それでは、小学校教科用図書の見本本も用意されておりますので、適宜ご参照いただき、また、既に7月定例会で報告をいただいております「小平市立小学校教科用図書審議委員会報告」についても参考にご協議願います。

なお、本日協議いたします、小学校教科用図書「特別の教科道徳」は、今回が初めての採択となりますので、協議に入る前に、教科の目標や学習指導要領のポイントについて、説明をお願い

いたします。

○出町教育指導担当部長

それでは、「特別の教科道徳」の目標及び学習指導要領のポイントについて説明いたします。

道徳の目標は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考え方を深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる、でございます。

道徳の学習指導要領のポイントは、道徳科の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的考え方を今後も引き継ぐとともに、発達の段階に応じて指導内容を重点化すること、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図ること、体験活動を推進すること、先人の伝記、自然など児童・生徒が感動する魅力的な教材を充実させること、最後に、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実させることでございます。

○古川教育長

ありがとうございました。

それでは、協議に入ります。「特別の教科道徳」につきましては、発行者8者から見本本の提出がございました。

図書名を申し上げますと、東京書籍が「新しい道徳」、学校図書が「かがやけみらい 小学校道徳 読みもの」及び「かがやけみらい 小学校 道徳 活動」、教育出版が「小学道徳 はばたこう明日へ」、光村図書出版が「道徳 きみがいちばんひかるとき」、日本文教出版が「小学道徳 生きる力」及び「小学道徳 生きる力 道徳ノート」、光文書院が「小学道徳 ゆたかな心」、学研教育みらいが「みんなの道徳」、廣済堂あかつきが「みんなで考え、話し合う 小学生の道徳」及び「自分を見つめ、考える 道徳ノート」となっております。

それでは皆様、ご意見を伺いたいと思います。どなたか発言をお願いいたします。

○森井教育長職務代理者

ただいま事務局よりご説明をいただきました、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする道徳科ですが、今回四つの視点を自分に関すること、人とのかかわり、集団や社会とのかかわり、そして生命や自然崇高なものとのかかわりと順序を改めたことにより、児童にとっての対象の見守りが明確になるとともに、生命という言葉がつけられたことにより、自他の命を大切にすることについても、より明確に示されています。

また文科省による教材に留意する点にもさまざま改正点はありますが、児童の発達段階や、特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めることとし、特に生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題を題材とし、児童が問題意識

をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこととしており、まずその観点でいただきました資料の中の東京都教育委員会の教科書調査研究資料を参考にさせていただきました。

先ほど挙げられた題材を扱っている教材数を比べてみたところ、生命の尊厳では、東京書籍、学校図書、光村図書出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきが同数。

自然は自然愛護の項目で東京書籍、学研教育みらい。

伝統と文化は日本文教出版、光文書院。

先人の伝記については、学校図書、学研教育みらい。

そして、現在の課題を取り扱っている教材については、日本文教出版が最も多く、光文書院が続きます。

この五つの題材だけに注目してみると、光文書院、学研教育みらい、学校図書が求められる教材を多く扱っている点では採択するにふさわしい教科書であると言えます。

さらに、小平市立小学校教科用図書審議委員会からの調査報告を見させていただき、どの教科書会社の教科書も学習指導要領に基づき、内容が正確、かつ公正であるとしながらも、児童の発達段階に応じた分量であるか、また記号や写真などのわかりやすさや、見やすさ、教科書の大きさが児童の学習活動に適したものであるか等についての点で、評価が分かれるところであるとの感想をもちました。

そして、今回の教科書の特徴に別にノートがついているかどうかも児童の学習活動にとって、また、そのノートを使用することでの教員の指導の仕方についても意見が分かれるところです。

また教材の初めや教材中の吹き出しに発問が示されていることについても、児童にとっては教材に入り込むきっかけとなり、授業の流れをつくる助けになる反面、教員にとって考えさせたい問題が制限される可能性もあるとの見方もあり、ノートの取り方を含め、学習の仕方について教員の工夫が必要となることは言うまでもないことです。

そして、実際、各者の教科書を見させていただき、まずは児童にとってわかりやすく見やすい教科書であるかとの観点では、カラーユニバーサルデザインの認証マークを取得している、カラーユニバーサルデザインに配慮、ユニバーサルデザイン書体を使用、または配慮しているなど、各者児童に優しい色合いや書体に工夫が見られました。

また教材にふさわしい挿し絵は各者とも使われており、児童が学習を進めていく中で、内容はもちろん、次のお話の挿し絵はどんなだろうと、楽しみにすることであろうと私もワクワクする思いで読ませていただきました。

ただ、余り挿し絵が多過ぎたり、大き過ぎたりするものは、特に低学年の児童にとって学習に集中しづらい状況をつくってしまうのではとの心配もありました。

また、同じ教材でも、挿し絵によって受ける印象も違ってきます。図書館で市民の皆様からいただいたアンケートの中で多くご意見が寄せられた1年の教材で、8者ともに扱われていた「かぼちゃのつる」ですが、今までも長く扱われてきた教材で1年の児童にとってはなじみのあるものです。

私は各者の挿し絵を見比べてみました。東京書籍の49ページ、学校図書32ページ、教育出版の14ページ、光村図書出版の18ページ、日本文教出版の54ページ、光文書院の36ページ、学研教育みらいの14ページ、廣済堂あかつき36ページになりますが、一つの教材にすぎませんが、挿し絵に対する各者の姿勢のようなものを見てとることができたように思います。

以上のさまざまな要素を考慮し、私としては小平の子どもたちに使ってほしい教科書としては、まずどの学年にとっても扱いやすい大きさであること、教材名と主題が初めに記載されており、さらに発問があることにより児童が授業に入りやすいように工夫されていること。挿し絵や紙の色合いなど、目に優しい配慮がされていること。そして、紙面がすっきりと見やすいこと。加えて、市民アンケートに寄せられたご意見等も鑑み、私としては光村図書出版、学校図書、東京書籍がふさわしいのではないかと考えます。

○古川教育長

ありがとうございました。
ほかにございますでしょうか。

○山田委員

このたびの平成30年度から小平市立小学校において使用する道徳の教科書採択に際しまして、私は導入の1年生と後は中学校へ接続という点では6年生の教科書を特に拝見させていただきまして、意見をさせていただきます。

調査報告書なども参考に私は、教科書全体の統一感、そしてサイズ、授業でいうところの学習の目当て、後は学習後の振り返り、また道徳を学ぶことで、自分ごとのように感じ、考え、行動に移すことができるようになることがこの教科書でとても重要なことと捉えておりますので、読み物としても、身近に感じ捉えられる題材を多く扱っているであるとか、中身を拝見させていただきました結果、私は教育出版と日本文教出版の2者に絞ってみました。

全体の統一感としては、東京書籍が表紙、イラストになりますが、1年生から6年生まで、とても統一性のないことが一つ気になっております。

手に持ったサイズ感といったところでは、光文書院と学研教育みらいが若干大きいサイズになっておりまして、1年生は特に使うのには扱いづらいかと感じております。また光村図書出版は最もコンパクトで使いやすい、手に持ちやすいのかなと感じております。

そして、授業の前の学習の目当てといったところでは、学校図書と光文書院がとてもわかりやすく、これから何をします、何を学びますというところで、そういった表現がしっかりとダイレクトに表現されていると思いました。

また、授業の振り返りという視点では、東京書籍はあつたりなかったという部分が、気になっております。

学校図書は基本的に振り返りがなく、あとの教科書では基本的にはそういった部分はあったというふうに認識しております。

そういった教科書の内容といたしましては、どの会社も道徳といった部分で気づきを得られるような題材をしっかりと選んでおり、また身近に感じられる、自分ごとのように感じられる題材やテーマがバランスよく配置されているのではないかというふうに思っております。

要はどの教科書も基本的には、教科書としては、優劣をつけがたい状況ではございますが、全体のバランスとして、重複しますが教育出版、そして日本文教出版、この2者に私は絞らせていただきました。

○古川教育長

ありがとうございました。

ほかにもございますでしょうか。

○高槻委員

道徳ということで初めてなので戸惑いもありました。編修趣意書の中に、基本方針が三つ書いてあり、自分の生き方を主体的に考える子ども、みずから気づき考え判断する子ども、意欲的に行動する子どもとなっています。でも、これはわかったような、わからないような、当たり前のことであり、これに準じて作ったという意味ではどの教科書もよくできていると思いました。

私自身は自然科学を学ぶ人間という立場からいって、今の子どもに教えてほしいと思うことは、地球に人口が増えて、自然との関係が難しくなっている中で、自然のことを考えるということはもう重要なことなので、それがどのくらい書いてあるかというのを一つの基準におきました。

それから、私自身が子どものころのことを思い出してみると、今の教科書というのは大き過ぎるのではないかと感じます。また、私はよく忘れ物をする子だったので、分冊になっているというのは余りよくないのではないかというあたりを考えながら眺めました。

結論的に言うと、東京書籍と光村図書出版は自然のことをよく取り上げていて良いと思いました。ただ、東京書籍の場合は、著者が書いていません。最後の表紙の裏に編集委員名が書いてあるので、それは子どもにとってはどうかわかりません。これは本としてはよくないので減点です。

光文書院は本が大きい点は子どもには重いかと思いますが、自然の記述はよく取り上げている教材もいいし、考えさせられるような内容もありました。

ですので、東京書籍、光村図書出版、光文書院の三つを選びたいと思いました。

市民の声の中に、国語の教科書とどう違うのだろうという意見があって、確かにそうだと思います。私は、これから国語の教科書を作る上で、道徳とどう違うのかという意味で影響するのではないかと思います。つまり、国語では言葉や文章、文の構造などにもっと力を入れる一方、人生を考えたり、偉人伝的なものなどは道徳に入れるなどといった影響を与えるのではないかと考えました。初めての試みなので、つくる側も、迷いなどはあったと思います。

○古川教育長

ありがとうございました。

三町委員、ありますでしょうか。

○三町委員

小学校の道徳ですけれども、私が教科書を調べていた視点は、大きく言えば小平市の状況、あるいは小平市の子どもに重点的に育てたい内容、例えば勤労観や職業観という面と問題を自らに見つけて考える、そして解決していこうとするような態度を育てようとしているかです。

また小平の小学校の道徳の授業の状況、そんなことを自分なりの視点から考えてみました。

それから、新しい「特別な教科道徳」としての道徳の授業に関する内容項目のバランスのこと。取扱いの部分では、情報モラルや現代的な課題について扱うように示されていること。指導ではみずから振り返り自分の成長を実感したり、新たな課題・目標を見つけることができるような工夫をしましょう。あるいは主体的に学習に取り組むようにしましょう。自分の考えをもとに話し合ったり書いたりするなどの言語活動の充実をしましょうという、こういったことが示されていると思います。

また、「特別な教科道徳」ということに位置づいた一つの理由として、いじめの問題、これが大きな理由の一つに挙げられていたと思います。そういう視点からの教科書の扱い。

こうしたことを踏まえ道徳の授業の進め方、教師側がどうやって子どもたちが主体的に学べるようにするか、そういったことについて教科書でどのように扱っているのか、そんなところで見ってみました。

まず、小平市立小学校の道徳の授業の現状として、学校訪問をさせていただいていると、普通に授業の中の1コマとして位置づけられて、そして自然な形で授業をされているということで、基本的に学校としての計画的に、または意図的に進められていることがわかっています。それにふさわしい教科書は何かということで考えると、先生方が教科書を教えるのではなくて、その教科書の題材の取り扱いを工夫しながら使い進められるようにするとか、これが大事だと思います。

一方で、誘導的ではあってはいけないとは思いますが、ある程度子どもも読んで自分なりに課題意識をもって考えていこうとすることができる、そういう教科書でもあってほしいので、そのバランスが非常に難しいと今回見ていて感じました。

そういうところで、まず課題についての情報モラルだとか、現代的な流れについてというので、情報モラルについては報告書にも全て扱われているようなことが書かれています。

それから、現代的な話題については東京都の調査結果を調べてみたのですが、調査結果を見ると、現代的な話題がどの学年にも扱っていないような表記になっていたのが東京書籍、学校図書、教育出版でした。しかし教科書を見ましたら、やはり主に自然とか生命とか、崇高なものに対することをしっかり扱われており、これも環境問題等を含めて扱われているので、どの教科書会社もそれを意識してつくられているということでありました。

次に指導法としてどうだろうと見ていくと、子ども自身が自分を見つめるとか、あるいはさらに発展させていくというようなどころで見ると、題材に対して、冒頭でどう扱っているか。その題材の末にどういう問いかけをしているか。そんなところも非常に重要になってくると思い、特

徴的なところがあったので、そこも見てみました。

それから、ノートと教科書との関係がどうつくられているか、これも同じノートであっても内容的な扱いが違いました。

もう一つ、学校で子どもが見て扱うときに、題材の配列が年間を通してなっているのか、あるいは大きな内容項目ごととなっているのか、これも特徴的な違いがあったので、そのことも評価をした内容にしていました。

それから、もちろん教科書の大きさはこの報告書にも書かれていますので、その差についても考えていったところです。

そういったところで、まとめてみたりしたのですが、教科書の大きさについて非常に悩みました。例えば、大きさを気にしなければ光文書院の内容は評価したいと思っているのですが、ただ、大きさとしてA判が、どうしてもひっかかってしまっていました。そういう意味で学研教育みらいのところも含めて大きさとしてどうかということで、私の中では消去法として消させていただきました。

それから、ノートの扱いについては、学校図書と日本文教出版は本文との関係での問いかけに対応した形になっています。それに対して廣済堂あかつきの場合は、必ずしもそうになっていません。あくまでも、その学習を学んだあとのことが書かれているというところで、扱いが違いました。廣済堂あかつきのほうは、教師側が意図的に使っていないと、本文での問いと、それからノートの扱いが違ってきていますので、難しい部分があると考えました。

それから日本文教出版は、あえてノートをつけなくても教師のほうで、板書の工夫やノート指導をすればすむ程度だと思われ、あえてつける必要があるのかということを感じました。

学校図書は、ある程度まとまってはいると思いましたが、ノートにも挿し絵が多くて、教科書的でさらに両方教科書のように感じます。教科書とノートを並べて、どうやって子どもが学んでいくかと、使い勝手の問題が気になって、結論としては、ノートがついていない教科書のほうがいいのではということで、私は外させていただきました。

その中で、さっき言いましたように、教科書、ノートの扱い、題材の取り扱い、年間の目次の扱い、いじめについての目次上の表記、そういうもので見ていくと、題材の冒頭での取り扱いでは、子ども向けの内容項目が書かれている東京書籍、教育出版、光村図書出版も書かれています。光村図書出版は個々の課題に何か吹き出しがあって、目当てのことも考えて書かれています。

それから題材の末にある問いかけについては、対自分、登場人物にかかわって自分はどうか考えるか、その結果を見て自分はどうか行動していくのかというような、理解を深めさせて、そしてさらに次へどうしていこうかという問いかけが、それぞれきちんと押さえられています。

しかし、教育出版の特徴は問いかけの質問数が多くて気になったのですが、教科書会社の説明で見ると、そこから教師がチョイスして、問題解決的な発問にする場合と従来のような形で分けて、授業を展開できますということなので、教師の工夫により活かされると思います。ただ、保護者から見ると、こんなにたくさんの質問をしてどうするのかというような思いも感じるのが気になったところでもあります。

それから、目次の配列ですけれども、これは学校図書が大項目になっていたのが教師側にとってはいいのかもしれませんが、子どもが使ったときにページの飛びはね飛びはねになってしまって、目次との関係が非常に扱いにくいと感じました。

そしていじめについて、目次の中でいじめの課題にかかわるということをはっきり書かれているのは東京書籍と教育出版と思います。

それから、ここで子ども自身が見て、授業以外の時に見ても学べるものとして、例えば教科書の付録や巻末の中に、人とかかわり方をどうしていきましょうとか、伝統文化について書かれているのは東京書籍、教育出版でよかったと思います。

教育出版については、教師の使い方と保護者とのことで気になるようなところがありますが、東京書籍、教育出版、光村図書出版の3者にしておきたいと思います。

○古川教育長

ありがとうございました。

続いて、私のほうから。発行者8者について、教科用図書審議委員会より、全ての教科書が学習指導要領に基づき、正確かつ公正であるとの報告がありました。また、内容や構成上の工夫についても、それぞれの発行者のよい点や工夫をしている点についても報告がありました。

私は、「考える道徳、議論する道徳」の教材として使用しやすいもの、読み物の登場人物の心情理解のみに偏った指導ではなく、「自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える」発問となっているかという観点で判断いたしました。また、道徳教育の改善に関する議論の発端となったいじめ問題に対して、児童が主体的に対処することができる力を育成するという点を重視しました。その結果、教育出版の「小学道徳 はばたこう明日へ」と日本文教出版の「小学道徳 生きる力」を推薦します。

まず、教育出版の「小学道徳」は、教材の並び方が各学年の発達段階に即しており、いじめや情報モラルなど今日的な教材が準備され、重点ポイントを定めています。先人・偉人の伝記等を扱った教材も多いです。各教材の最後に「学びの手引き」があり、役割演技等、体験的な学習を促す設問や、学級の実態に応じた展開ができるように、発問の例が多く示されています。教科書の大きさや重さも適切だと思いました。

続いて、日本文教出版の「生きる力」は、いじめ防止や安全教育に関する内容を扱った教材が大変多いと思いました。体験的な学習や問題解決的な学習の手法を用いるのに適した教材には「学習の手引き」が設定されています。また、ほとんどの教材が4ページにおさまるように工夫されていることも学習しやすいと思いました。2冊構成になっていますが、道徳ノートのほうを小さくするなど、重さにも配慮しています。道徳ノートには友達を考えや学習の振り返りを記載できるようにしている点もよいと思いました。

あとは、ほかにございませんでしょうか。

○三町委員

教科書の扱いの中で、教科書に道徳ノートがつけられているものには学習の振り返りができるような欄がついていますが、ノートのついていない教科書そのものを絞り込んでいった中で、東京書籍は最後のところに年間としての振り返りで各授業についての自分の確認欄。光村図書出版については、1年間4期に分けて各授業をもとに振り返る欄が設けられています。これは子どもにとっては自分の心の成長を振り返ることのできると同時に教師側から見ても、個々の児童についてこういう道徳性の高まりがあると読み取れることができ教科書での扱いとして、東京書籍、光村図書出版の扱いはよいと思ったところです。ただ、東京書籍は年間35時間ある道徳に時間分の記入欄はないということで、どういうふうにかかせるのかというのは疑問には思いました。

いずれにしても、そういった振り返りを教科書でもきちんとさせようとする姿勢の2者の扱いはよいと思いました。

○古川教育長

ほかの委員の皆様は。

よろしいですか。

ーなしの声ありー

○古川教育長

複数の推薦があったのは、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版の4者ですが、3名以上ということになりますと、東京書籍、教育出版、光村図書出版、この3者かと思えます。

それでは、委員の皆様のご意見を総合いたしますと、議案の候補は、発行者名、東京書籍「新しい道徳」、発行者名、教育出版、図書名「小学道徳 はばたこう明日へ」、発行者名、光村図書出版、図書名「道徳 きみがいちばんひかるとき」が妥当かと存じますが、いかがでございましょうか。

ー異議なしの声ありー

○古川教育長

以上で本日の協議を終了いたします。

次回8月17日において、本日の協議結果に基づきまして、候補を1者に絞り、それを議案の原案といたしたいと存じます。

おわりに、次回の教育委員会は、平成29年8月17日木曜日、午後2時から市役所6階大会議室で開催いたします。

なお、参集時刻は午後1時30分といたします。

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして教育委員会7月臨時会を閉会いたします。

午前10時43分 閉会